

# 発達の段階に応じた キャリア教育の在り方 —午後の部—

2015年7月30日

筑波大学 人間系  
藤田 晃之

CAREER EDUCATION



# 発達の段階に応じた キャリア教育を推進するために② —教育活動全体を通じて実践しよう—

CAREER EDUCATION



# 1. 洗い出す

## キャリア教育の「断片」の意識化を

キャリア教育はそれぞれの学校の教育活動全体を通して実践することが大切です。まずは、学校の教育活動の中にあるキャリア教育の「断片」を見いだしましょう。

### ●指導内容に関すること

例) 各教科の中で扱われる単元や題材などの内容が、生活や社会、職業や仕事に関連する場合、それらを一人一人の児童生徒の将来に直接かかわることとして理解させる。

### ●指導手法に関すること

例) 話し合い活動やグループ活動の活用など、指導方法の工夫・改善を通して、社会生活・職業生活にも応用できる能力を高める。

### ●生活や学習の習慣・ルールに関すること

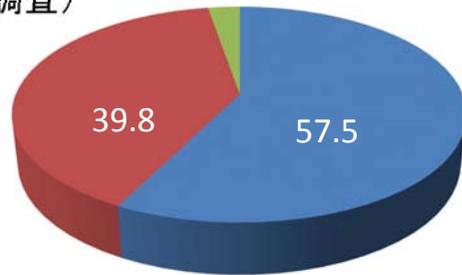
例) 学習規律の徹底、時間の遵守、片付けの仕方などに関する指導を通して、自らを律する力や様々な課題に対応する力を高める。

### ●これまで行ってきた体験的なキャリア教育を見直す

社会人講話や職場見学、職場体験活動、インターンシップといった体験的なキャリア教育については、「目指す姿、付けさせたい力」を念頭にに入れて、その果たすべき役割を明確にし、事前・事後指導を含めて体系的・系統的に取り組みましょう。

## 「宝」の見落としに要注意

- 平成22年度中に職場訪問や職場見学を実施しましたか？(小学校調査)



■ 実施した ■ 実施していない ■ 無回答

- 職場の全くない「商店街見学」？「まちたんけん」？
- 誰も働いていない「工場見学」？

平成23年2月～4月 5%抽出調査(文部科学省)

## やみくもにがんばらない

〈『高等学校キャリア教育の手引き』からのヒント〉



- 例えば、キャリア教育を通して育成する基礎的・汎用的能力の一つである「課題対応能力」には、情報を正しく理解するための能力が含まれるが、この力を育成する機会となり得る教育活動は数多い。
  - 「国語総合」の「読むこと」では、文章の内容を叙述に即して的確に読み取ることが主要課題の一つであるし、「地理A」「地理B」における地図の読図や衛星画像・空中写真の読み取り、「理科」の各科目における観察や実験の過程での情報の収集や実験データの分析・解釈などもその具体例となる。また、授業中に板書された課題文を正しく読み取ることなどまでを視野におさめれば、情報を正しく理解するための能力の育成に寄与し得る教育活動は、文字通り無数にある。
- キャリア教育の実践の機会となり得る単元や教育活動を広く見出し、それを列挙することは、教科を通じたキャリア教育の年間指導計画の作成にとって有効な基礎作業の一つであるが、このような作業によって挙げられた膨大な数の単元等を、例えば一覧表形式に整理したとしても、それをそのまま指導計画として見なすことはできない。(続)

## やみくもにがんばらない

〈『高等学校キャリア教育の手引き』からのヒント〉



- なぜなら、その一覧は、キャリア教育の実践の機会として活用し得る可能性が高い場の羅列に過ぎず、キャリア教育の一環としての教育意図に基づく指導実践の計画にはなっていないからである。また「洗い出し」の作業を丹念にすればするほど、キャリア教育の「断片」となり得る機会はほとんどすべての教育活動に見いだされることとなり、「これまでどおりの教育のままでよい」という誤解を助長する結果にもなりかねない。



キャリア教育の実践主体(=先生方)が、意図的に体系を設定し、その体系を意識しつつ実践し、それを生徒たちに明示的に伝えてこそ、計画的・系統的なキャリア教育になる。「今」「この学年・このクラスで」伝えるべきこととは何かを意識し、それを生徒と共有することが何より重要。それにふさわしい単元の選定と焦点化が不可欠。

## 何のための「洗い出し」か？

- 「我が校の子どもたちに身に付けさせたい力」を確実に身に付けさせる上で、最も有効な機会を探すため
  - 既にある“宝”(=キャリア教育の「断片」)を有効活用する
- 身に付けさせたい力が具体的であれば、“宝”を見つけるのは、そう難しいことではない
  - 抽象的なゴールでは、「これも大切」「それも大切」……結局は「全部大切」となり、結局はこれまでの教育と同じになる。

# 2. つなぐ

## 整理された「断片」を体系的・系統的な指導に

### ●優先順位を付け、単元を焦点化する

学校教育という有限の期間の中では実践できることに限りがあります。そこで、目の前の子どもたちに特に身に付けさせたい力を基礎的・汎用的能力(P14-15参照)を踏まえながら判断し、「今」「この学年・この学級で」「この子どもたちに」という視点から優先順位を付けて、単元や題材を焦点化することが大切です。

### ●「断片」をつなぐ

効果的な教育活動を進めていくためには、キャリア教育の一環としての意図を持って洗い出され、焦点化された「断片」をつなぎ合わせ、体系的・系統的に指導していくことが重要です。特に道徳、総合的な学習の時間や学級活動・ホームルーム活動などの時間を積極的に活用し、より深い理解へと導くための指導に発展させましょう。

## 「断片」相互を「つなぐ」ことを怠らない

- たくさんのキャリア教育の「断片」(キャリア教育の「宝」)を、子どもたちの前に投げ出しても、子どもたちには、それをつなぎ合わせて、全体を見通す力はない。

- これは、この前〇〇の時間でやったことと同じだね。
- △△の時間で◇◇先生からこんな話を聞いたよね。今日学んだことと、△△の時間にやったこととの共通点は何か分かるかな？  
→あらかじめ、「明確な目標」と「そこに向かう流れ」が設定されていないと、このような発言すら出てこない。

## 「断片」相互を「つなぐ」ことを怠らない

- 例：中学校  
学習指導要領 第5章 特別活動 第2 学級活動
  - 2 内容
    - (3) 学業と進路
      - ア 学ぶことと働くことの意義の理解
      - イ 自主的な学習態度の形成と学校図書館の利用
      - ウ 進路適性の吟味と進路情報の活用
      - エ 望ましい勤労観・職業観の形成
      - オ 主体的な進路の選択と将来設計

※指導計画の作成に当たっては、次の事項に配慮するものとする。

- (1) ...各教科、道徳や総合的な学習の時間などの指導との関連を図る

これから演習に入ります  
(詳細はスライドでお示します)



まとめにかえて



## キャリア教育推進の2本柱

「第2期教育振興基本計画」平成25(2013)年6月

### 【主な取組】

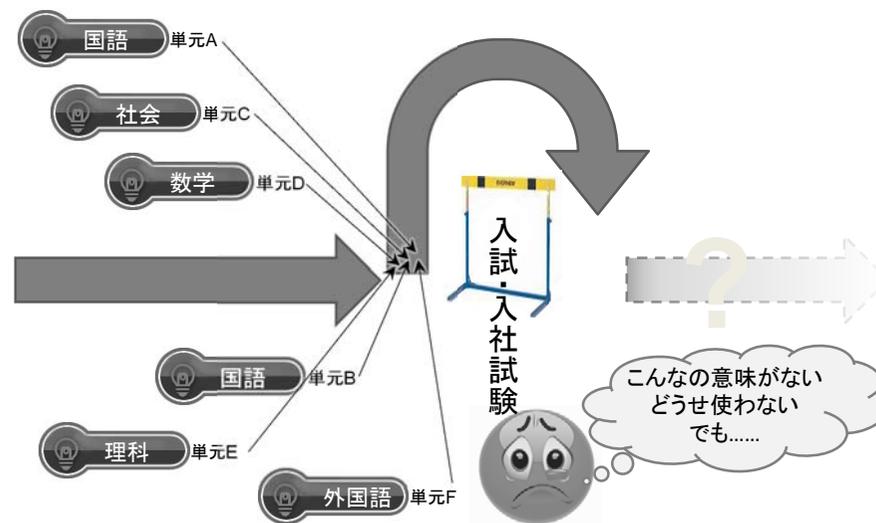
1 3-1 社会的・職業的自立に向け必要な能力を育成するキャリア教育の推進  
・ 幼児期の教育から高等教育まで各学校段階を通じた体系的・系統的なキャリア教育を充実し、特に、高等学校普通科におけるキャリア教育を推進する。  
その際、子ども・若者の発達の段階に応じて学校の教育活動全体を通じた指導を進めるとともに、地域におけるキャリア教育支援のための協議会の設置促進等を通じ、職場体験活動・インターンシップ等の体験活動や外部人材の活用など地域・社会や産業界等と連携・協働した取組を推進する。特に大学においては、産業界の協力を得て、国内外でのインターンシップの機会を大幅に増やす。

- ① 子ども・若者の発達の段階に応じて学校の教育活動全体を通じた指導をすすめるとともに、(中略)
- ② 職場体験活動・インターンシップ等の体験活動や外部人材の活用など地域・社会や産業界等と連携・協働した取組を推進する。

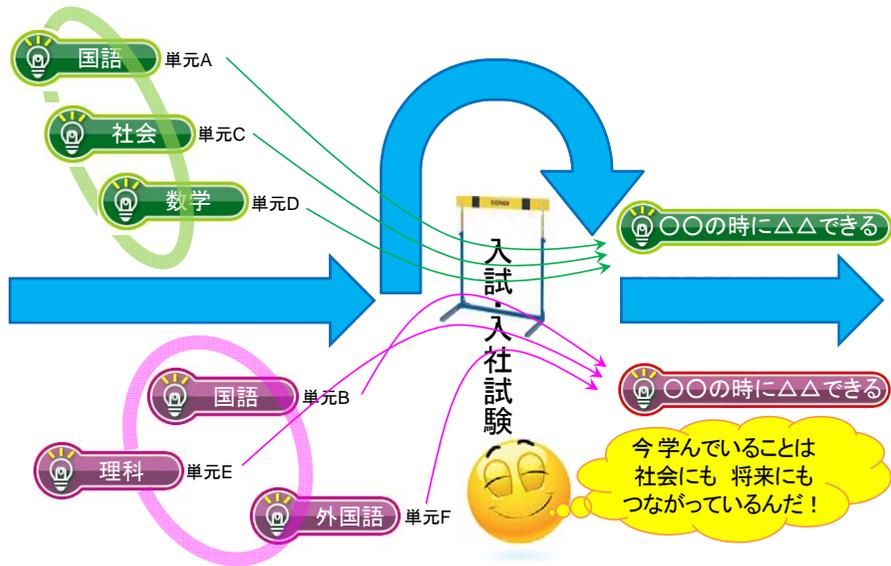
## キャリア教育推進の2本柱

- 教科等(総合的な学習の時間、道徳、特別活動を含む)を通じた日々の学び
  - 自らの将来との接点、未来に生きる力の実感
- 地域・企業等との連携による体験を通じた学び
  - 現在の学習と「大人の世界(=未来の私の世界)」との接点を見出す場でもある
  - 新たな学習課題の発見、自らの「欠け(=発展・成長の可能性)」の発見にもつながる
- 学校における教科等の意義の認識の深まり

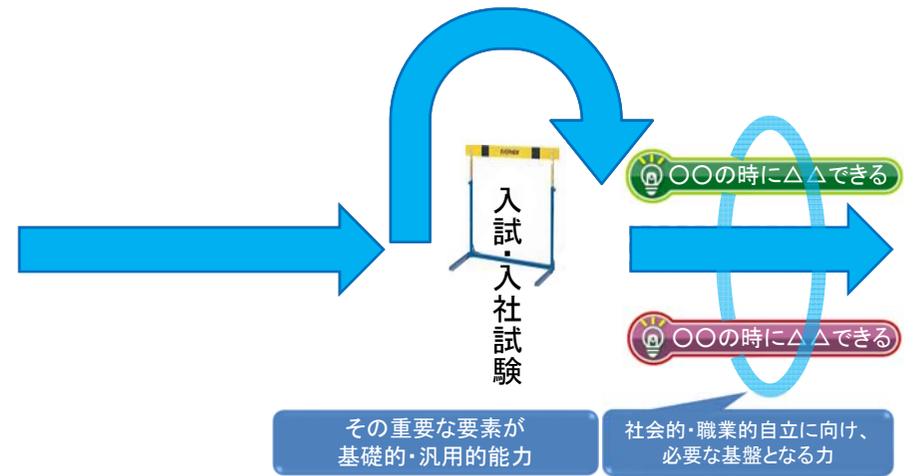
## 日本の中高生たちの現在の学び



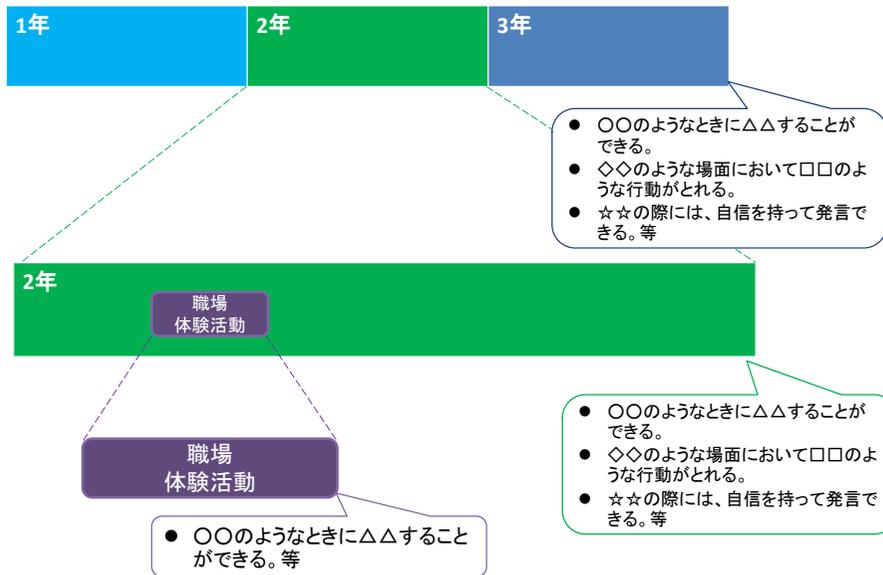
# キャリア教育の力で学びを変える



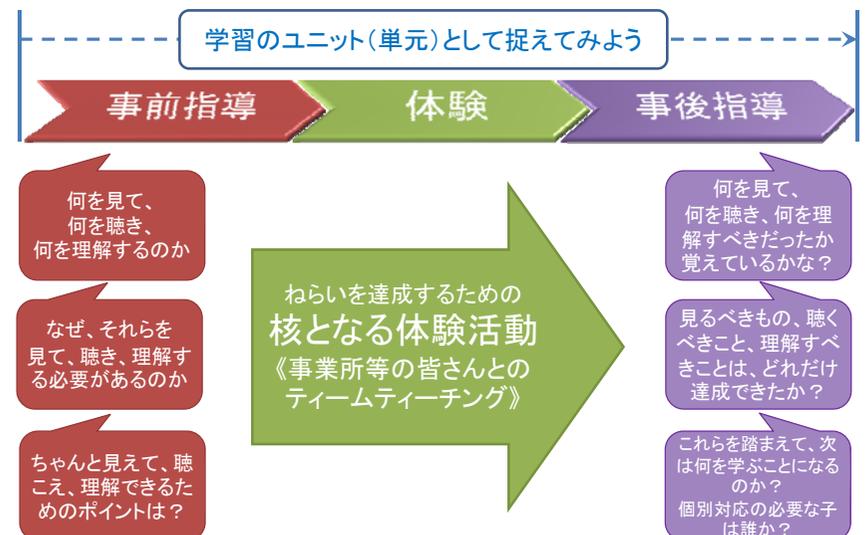
# キャリア教育の力で学びを変える



# カギを握るのは「ねらい」



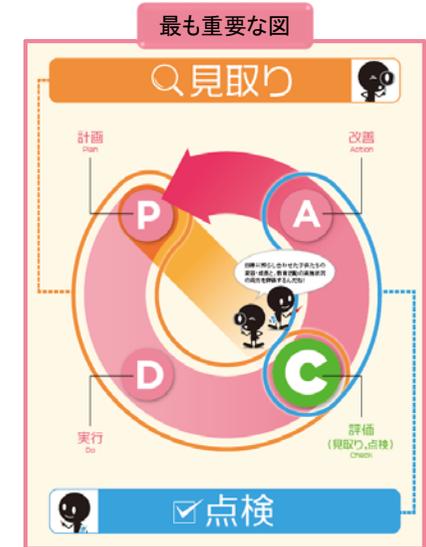
# カギを握るのは「ねらい」



# カギを握るのは「ねらい」

- 「身に付けさせたい力」が具体的にあれば、それを“疑問形”に変換してアンケート調査項目が作れる
  - 例：〈目標〉必要なこと・すべきことには、不得意なことにもすすんで取り組むことができる
  - 〈アンケート項目〉あなたは、必要なこと・すべきことがある場合、それが不得意なことであってもすすんで取り組んでいますか？
- 「身に付けさせたい力」が具体的にあれば、小・中間のバトンの受け渡しもできる
  - 「生き生きと光り輝く子」だけでは、バトンの形も見えない

# カギを握るのは「ねらい」



# カギを握るのは「ねらい」



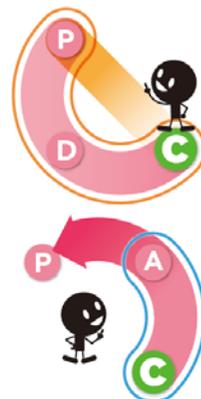
## 評価(見取り, 点検)のカギは?? 「スタートに立ち返る」ー目標・計画にあります

先生方が目指した目標や計画に立ち返ることが重要です。

見取りの際に、先生方が立てた計画において決めた、子供たちに身に付けさせたい力を意識することから始めませんか。

教育活動の点検の際にも、計画に照らしながら、子供たちに力を身に付けさせるのに役立つ活動となったかを意識しながら情報収集することから始めませんか。

目標・計画に常に立ち返り、見取りと点検を地道に行い、改善した上で、次の計画を充実させていくことこそが、教育におけるPDCA(検証改善)サイクルの推進にほかなりません。



ありがとうございました。

